

ARIBの動き

第13回規格評議会を開催

8月4日、当会の第2会議室において、第13回規格評議会を開催しました。安田靖彦委員長（東京大学名誉教授、早稲田大学名誉教授）の議事進行により、当会の若尾専務理事から電波産業会のこの1年間の活動内容等に触れた挨拶に続き、関口理事から調査・研究開発及び標準化の体制、前回以降の規格会議の開催状況、標準規格等の策定・改定の内容、標準規格等の電子ファイルの無料ダウンロード状況等について説明がありました。

安田委員長をはじめ各委員からは、7月29日に新たに策定された高度衛星デジタル放送の伝送方式標準規格の内容、第4世代移动通信システム標準化に向けた取り組み状況、Web サイトを利用した標準規格無料ダウンロード数の推移と頒布図書との関連など、広範なご質問や貴重なご意見をいただきました。

【注】

電波産業会の定款では、規格会議の委員から異議申立てがあった場合に、会長から規格評議会に諮問し、規格評議会での議決することと定められています。今回、規格会議の委員からの異議申立てはありませんでしたが、1年間の標準規格の策定・改定等の活動状況報告ということで規格評議会を開催いたしました。



第13回規格評議会の様子と安田委員長

第74回規格会議を開催(続報)

第74回規格会議(平成21年7月29日)における策定又は改定の概要(第6～13項)を、前号に引き続き掲載します。

- 6 1125/60高精細度テレビジョン方式スタジオ規格標準規格 (BTA S-001 C1.0版)
1125/60順次走査方式の映像信号パラメータを追加しました。1125/60順次走査方式のパラメータは、インタレース比が1:1であること以外は、可能な限り1125/60飛び越し走査方式と同じにすることにより、親和性を高めました。
また、表記をITU-RとSMPTEに準拠することとし、「Y/PB/PR」を「Y/CB/CR」に変更し、「G, B, R」の順を「R, G, B」の順に変更しました。
- 7 1125/60方式HDTV映像信号の符号化とビット並列インタフェース規格標準規格 (BTA S-002 C1.0版)
1125/60順次走査方式の符号化パラメータ及び1125/60順次走査方式のビット並列インタフェースデータの規定を追加しました。また、表記をITU-RとSMPTEに準拠することとしました。(BTA S-001と同様)
- 8 1125/60方式HDTV信号のビット直列インタフェース規格標準規格 (BTA S-004 C1.0版)
1125/60順次走査方式HDTV映像信号のビット直列インタフェースの規定を追加しました。また、表記をITU-RとSMPTEに準拠することとしました。(BTA S-001と同様) さらに、物理パラメータの見直しを行いました。
- 9 1125/60方式HDTVビット直列インタフェースにおける補助データの共通規格標準規格 (BTA S-005 C1.0版)
1125/60順次走査方式の信号の表記と意味を記載しました。また、1125/60順次走査方式の信号に補助データを多重する場合の優先順位などの規定を追加しました。さらに、既に規格化されているITU-R勧告、SMPTE規格と整合を図りました。また、DIDの使用状況を更新しました。
- 10 1125/60方式HDTVビット直列インタフェースにおけるデジタル音声規格標準規格 (BTA S-006 C1.0版)
1125/60順次走査方式の信号の表記と意味を記載しました。また、1125/60順

次走査方式の信号に補助データを多重する場合の優先順位などの規定を追加しました。さらに、既に規格化されているITU-R勧告、SMPTE規格と整合を図りました。

11 放送チェーンにおける映像・音声信号の障害監視のためのメタデータ技術資料

(ARIB TR-B29 1.0版策定)

本技術資料は、放送チェーン上の任意の監視点における映像及び音声信号の障害監視を支援するためのメタデータとその伝送方法、運用ガイドラインをまとめたものです。

放送チェーンにおける運用監視の高度化・高精度化、監視の自動化・省力化が求められています。メタデータを活用することにより、監視の運用性や精度を向上させることが可能と考えられます。そこで、機器障害や伝送障害で発生しやすいフリーズ、ブラック、ミュートなどの検出に利用可能な映像・音声信号特徴量をメタデータとして定義し、これを補助データパケットで映像・音声信号と同期して伝送する仕組みを示しました。放送チェーン上の各監視点で抽出された特徴量と、現監視点の信号から抽出した特徴量を比較・分析することにより、放送チェーン上での障害発生の検知や発生箇所の特定などに活用されることが期待されます。

12 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料 (ARIB TR-B14 3.9版)

今回の改定では、運用概要、データ放送運用規程（第三編）、PSI/SI運用規定（第四編）、送出運用規定（第七編）において、文字スーパー及びデータ放送のイベントメッセージによる緊急地震速報の運用に係る改定を行いました。また、送出運用規定（第七編）では、TS名変更に伴う改定も行いました。

その他、コンテンツ保護規定（第八編）では、リムーバブル記録媒体のコンテンツ保護方式（CPRM SD-Video）にTSファイルの記録フォーマットを追加するとともに、付録B（第一部、第二部）において、表番号の変更、誤記訂正等を行いました。

13 BS/広帯域CSデジタル放送運用規定技術資料 (ARIB TR-B15 4.7版)

事業者名の変更、社名変更による事業体名の更新、リムーバブル記録媒体にコンテンツをデジタル記録する場合の保護方式の追加等を行いました。

なお、第14項以降の概要は、次号で紹介の予定です。

「ITS無線システムの技術的条件」に関する情報通信審議会への諮問

(平成21年7月28日総務省報道発表)

総務省は、7月28日、情報通信審議会に対し、「ITS無線システムの技術的条件」について諮問しました。

1 諮問の背景

VICS(道路交通情報通信システム)やETC(自動料金収受)システムに代表されるように、ITS(高度道路交通システム)は我が国の重要な社会基盤の1つとなっており、近年は、安全や環境等の様々な分野での課題解決の手段として、その更なる高度化を図るための取組が進められているところです。

特に、交差点等における交通事故を削減するための安全運転支援システムの実現に向け、車載器同士や車載器と路側機間で自車の位置や速度情報等を送受信する車車間通信・路車間通信の技術開発や実証実験、衝突防止レーダの高度化等の安全運転支援通信システムに関する各種取組が進められております。

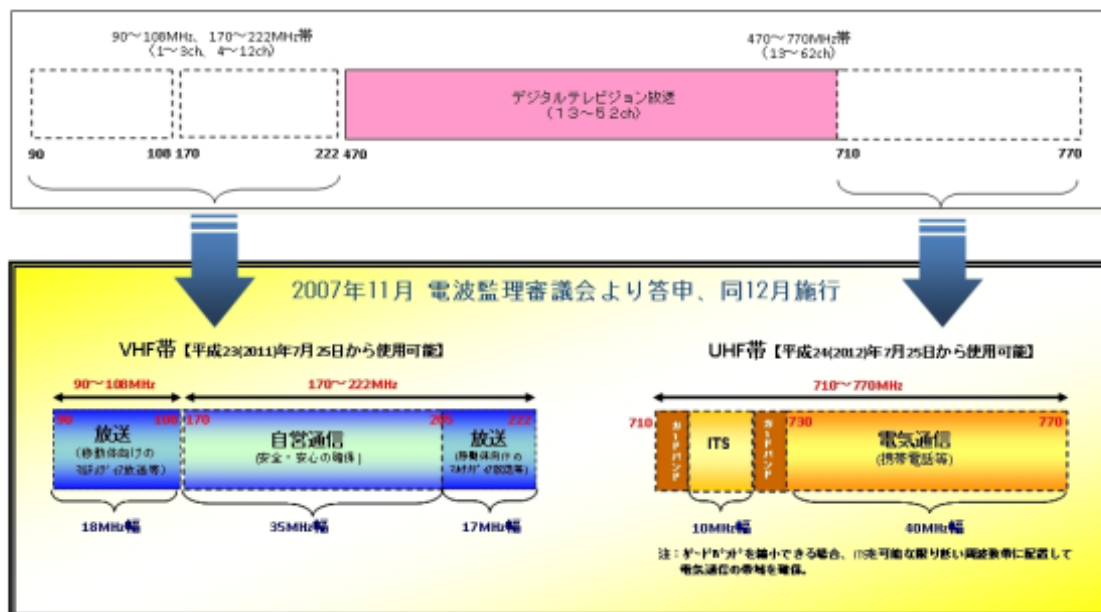
さらに、総務省が開催した「ITS無線システムの高度化に関する研究会」において、2012年7月以降地上テレビジョン放送のデジタル化完了後に利用可能となる700MHz帯の周波数帯を用いたITS無線システムの導入に向けて、利用イメージや通信要件等についての報告書が2009年6月に取りまとめました。

本件は、このような状況を踏まえ、地上テレビジョン放送のデジタル化完了後に安全運転支援通信システムで利用されるものを含む新たなITS無線システムの速やかな導入を図るため、ITS無線システムの技術的条件について諮問したものです。

2 諮問内容

ITS無線システムの技術的条件(700MHz帯安全運転支援通信システムの技術的条件他)

地上テレビ放送のデジタル化に伴う周波数割当計画の変更



3 検討体制

情報通信審議会情報通信技術分科会における審議に資するため、情報通信技術分科会の下に新たに設置された「ITS無線システム委員会」において検討されます。

4 答申希望時期

平成22年6月頃

5 今後の予定

答申を受けた後、関係規定の整備を行う予定です。

詳細は、<http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/16942.html>をご参照ください。

ページの先頭に戻る ▲